

Title	A 3-year follow-up study of radiotherapy using computed tomography-based image-guided brachytherapy for cervical cancer
Author(s)	川嶋, 篤
Citation	
Issue Date	
Text Version	none
URL	<a href="http://hdl.handle.net/11094/72523">http://hdl.handle.net/11094/72523</a>
DOI	
rights	
Note	

***Osaka University Knowledge Archive : OUKA***

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/repo/ouka/all/>

## 論文審査の結果の要旨及び担当者

(申請者氏名) 川嶋 篤		
論文審査担当者	(職)	氏 名
	主 査	大阪大学教授 小川 和幸
	副 査	大阪大学教授 富山 忠幸
	副 査	大阪大学教授 小泉 雅彦

## 論文審査の結果の要旨

日本における局所進行子宮頸癌は年間約1万人が罹患し、約3千人が死亡する疾患であり根治治療の方法として放射線治療と手術治療がある。放射線外照射と腔内照射を併用した根治的放射線治療の成績は、手術療法と比較しても遜色はない。従来の腔内照射はレントゲンによる2次元評価を用いて腫瘍に対して線量処方を行っていたため、正確に子宮頸部の腫瘍全体がカバーされていない可能性が指摘されていた。しかし、近年の腔内照射はCTによる3次元評価を用いて腫瘍への線量処方を行う治療(CTガイド下画像誘導小線源治療)へと移行し、複雑な形状の腫瘍に対しても適切な線量処方が可能となってきている。本研究は本邦でも早期にCTガイド下画像誘導小線源治療を導入した当院の治療成績を示し、良好な治療成績及び再発のリスク因子を明らかにしたと共に、再発の高リスク群に対しては将来的に異なった治療戦略が望ましい可能性を示唆した重要な研究である。

以上より、当研究は学位の授与に値すると考える。

## 論文内容の要旨

## Synopsis of Thesis

氏名 Name	川嶋 篤
論文題名 Title	A 3-year follow-up study of radiotherapy using computed tomography-based image-guided brachytherapy for cervical cancer (子宮頸癌へのCTガイド下小線源治療における3年間の経過観察研究)
論文内容の要旨	
<p>〔目的(Purpose)]</p> <p>当院における子宮頸癌に対するCTガイド下小線源治療(computed tomography-based image-guided brachytherapy: CT-based IGBT)の治療成績を検討すること。</p>	
<p>〔方法ならびに成績(Methods/Results)]</p> <p>2012年3月から2015年6月までに当院でCT-based IGBTによる放射線治療を行ったFIGO分類病期IB1-IVAの子宮頸癌患者84名を対象とした。中央遮蔽を用いた50Gyの全骨盤照射を先行し、CT-based IGBTを病期に応じて2-4回施行した。CT-based IGBTは6.8GyのA点処方基準として、CT画像上で手動により線量分布を調整した。総線量はbiologically equivalent dose in 2 Gy fractions (EQD2)により算出を行った。同時化学療法を施行した患者は64名(76%)であった。経過観察期間中央値は36ヶ月(2-62)であり、3年全生存率、局所制御率、無病生存率はそれぞれ94%、89%、81%であった。病期はそれぞれstage1B 27例(32%)、stage2 45例(54%)、stage3 11例(13%)、stage4A 1例(1%)であった。組織型はそれぞれ扁平上皮癌が71例(85%)、腺癌が13例(15%)であった。リンパ節転移は30例(35%)で陽性であった。腫瘍径の中央値は38mm(8-72)であり、45mm未満が50例で(58%)、45mm以上が35例(42%)であった。多変量解析では局所制御率増加の因子は腺癌(p=0.03)及び腫瘍径45mm以上(p=0.06)であった。EQD2を用いたHigh risk-clinical target volume D90の平均線量は73.4Gyであり、局所制御率との有意な相関は無かった。患者を扁平上皮癌と腺癌及び腫瘍径45mm以上と未満で4群に分けて解析したところ、腫瘍径が大きい腺癌の群が有意に予後不良であった。</p>	
<p>〔総括(Conclusion)]</p> <p>当院での子宮頸癌に対するCT-based IGBTを施行した患者を検討したところ、良好な治療成績が確認された。</p>	